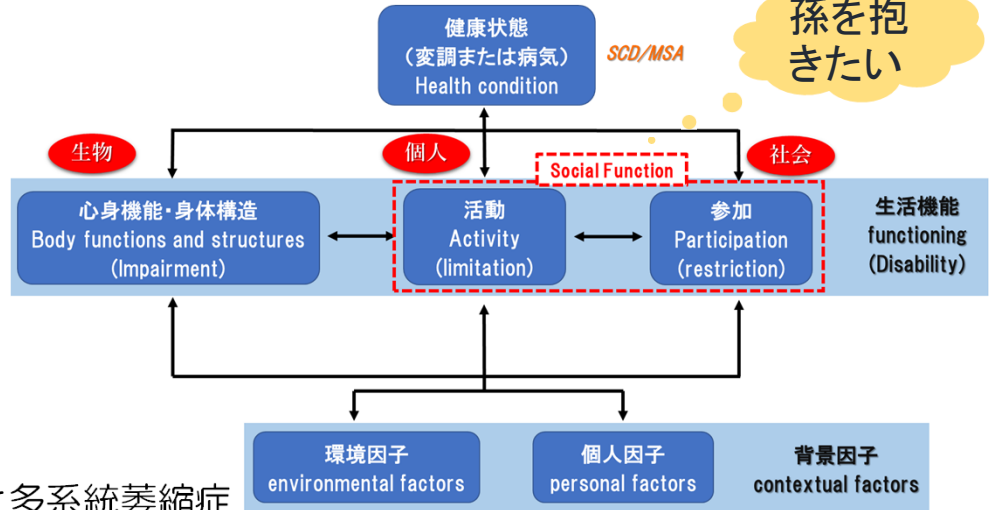


SCD・MSAに対するリハビリテーションの検証と開発・普及

研究分担者：宮井一郎（大道会森之宮病院神経リハビリテーション研究部）、
 研究協力者：平松佑一、藤本宏明、乙宗宏範、畠中めぐみ、矢倉一（同上）、
 服部憲明（大阪大学国際情報医工情報センター臨床神経医工学寄付研究部門）

【目的】

SCDにおけるリハビリテーション効果の新たな評価指標として(図1)、Goal Attainment Scale (GAS)を導入し(図2)、重症度や病期に応じたりハビリテーション介入の最適化を図る。



【成果】

1. 脊髄小脳変性症8例と多系統萎縮症4例の約4週間の短期集中リハ前後のGASのデータを収集した。

図1 ICFと Social Function

患者・家族と「目標」、「段階付け」、「重みづけ（重要性、難しさ）」を設定

図2 個別化された目標設定

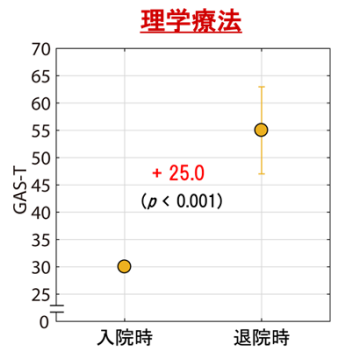
Tスコアに変換

図3 GAS-Tスコアの変化

スコア 目標：孫を抱いてあやしたい(重要性:2、難しさ:3)

- +2 調整された車椅子であれば孫を抱いて10分の座位保持ができる
- +1 調整された車椅子、ベビースリング無しで孫を抱いて5分の座位保持ができる
- ±0 調整された車椅子、ベビースリング使用で孫を抱いて5分の座位保持ができる **退院時**
- 1 調整された車椅子で座位保持はできるが、孫を抱えることはできない
- 2 標準的な車椅子では座位保持が崩れており、孫を抱えることはできない **入院時**

目標である座位機能を獲得するために、運動失調、筋力、座位保持能力、シーティング、動作指導などにアプローチする



2. GASは理学療法、作業療法、言語聴覚療法における個別性のある目標設定とその評価に有用であることを確認した(図3)。さらに具体的な目標に関しては、ICFコードに紐づけると(表1)、客観性を持った分類が可能であった。

表1 ICFコード分類の内訳

GAS目標	ICF章	ICFコード	頻度 (n=12)		
			理学療法	作業療法	言語聴覚療法
歩行	運動・移動	d4500 - 短距離歩行	5 (42%)		
四つ這いでの移動	運動・移動	d4550 - 這うこと	1 (8%)		
階段昇降	運動・移動	d4551 - 登り降りすること	1 (8%)		
屋外歩行	運動・移動	d4602 - 屋外の移動	1 (8%)		
ホースを持って歩行	運動・移動	d4301 - 持ち上げることと運ぶこと	1 (8%)		
トイレへの移乗	運動・移動	d4200 - 移乗	1 (8%)		
立ち上がり	運動・移動	d4104 - 立つこと	1 (8%)	1 (8%)	
姿勢の保持	運動・移動	d4154 - 立位の保持	1 (8%)	1 (8%)	
床からの立ち上がり	運動・移動	d4108 - 特定の基本的な姿勢の変換	1 (8%)	1 (8%)	
トイレ動作	セルフケア	d5401 - 排泄の管理	1 (8%)		1 (8%)
更衣	セルフケア	d5400 - 衣服を着ること	1 (8%)		
洗体、洗顔	セルフケア	d5100 - 自分の一部の身体を洗うこと	2 (17%)		
食事、嚥下	セルフケア	d550 - 食べる	1 (8%)		1 (8%)
調理動作	家庭生活	d6300 - 調理	2 (17%)		
孫を抱く	コミュニティライフ	d9205 - 社交	1 (8%)		
絵を描く	コミュニティライフ	d9202 - 芸術と文化	1 (8%)		
歌唱	コミュニティライフ	d9204 - 趣味			1 (8%)
発話の明瞭度	コミュニケーション	d330 - 話すこと			8 (67%)
発話	コミュニケーション	d3500 - 会話の開始			1 (8%)
自主練習の定着	一般的な課題と要求	d2301 - 日課の管理			1 (8%)